

Weekly Report



ロータリー:
変化をもたらす

2017～2018年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリー:変化をもたらす
(ROTARY:MAKING A
DIFFERENCE)

2017～2018年度
名古屋瑞穂ロータリー
クラブ会長のテーマ
ロータリーの品格を高めよう!

創立:1980年(昭和55年)1月10日
会長:稲葉 徹
幹事:大嶽 達郎
クラブ広報委員長:鈴木 健司
例会日:毎週木曜日PM12:30~
会場:ヒルトン名古屋

事務局:460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNATビル7F
TEL:052-211-3803
FAX:052-211-2623
MAIL:2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL:https://www.mizuho-rc.jp

第1824回例会

～水と衛生月間～

クラブテーマ:「熱田の杜・友愛・気品」

2018年3月8日(木) 雨 第32回

司会:松田浩孝会場委員
斉唱:「我等の生業」
ゲスト:梶山女学園大学生生活科学部教授 村上心さん

副会長挨拶

松井善則副会長

今日は空手について少しお話をさせて頂きました。私は昭和32年に学校へ入学しました。翌日、喧嘩に負けたくない想いで空手部に入部しました。空手には4団体あり、私は和道会に所属しています。他には松濤会、糸東流、剛柔流があります。簡単に言うと、和道会は全国にあります。剛柔流は立命館大学や同志社大学等、関西地方にあります。松濤会は、早稲田大学や慶応大学等、東京に多いです。糸東流は大学にはありませんが、全国的に分布しています。この4団体が、昭和39年に全日本空手道連盟を設立しました。設立後、国体にも出場出来るようになりました。設立前までは、そのような大会に出れる状態ではありませんでした。試合では、どちらかが負傷するか、倒れるかまでが勝敗の分け目であり、スポーツと言うにはあまりにも過激でした。設立後、大会でのルールを厳しく制定し、「絶対に殴ってはいけない。当ててはいけない。」というルールに改訂されました。恐らくオリンピック種目にもなると思いますが、その他のスポーツ大会にも出場できるようになりました。



現在は、非常に厳しいルールの元、我々とは全く違う大会になりました。私も長年続けていましたが、十数年前に胃癌を患い、手術で全摘出してから随分痩せました。それ以来、道着を着たこともなく、実技も出来ていません。今は、健康というのがどれほど有り難い物かを実感しています。どうぞ皆様も運動し、健康な体のまま末永くご自愛して頂きたいと思ひます。

出席報告

花井芳太郎出席委員

会員64名 出席47名 (出席計算人数47名)

出席率 87.0% 3月1日は補填により87.5%

ニコボックス

花井芳太郎ニコボックス委員

- ・本日は、公私共々お世話になっている村上教授に卓話をお願いしました。よろしくお祈りします。 鶴田 浩さん
- ・3月16日は誕生日です。年を取ると誕生日が早く来る気がします!! 伊藤 豪さん
- ・3月6日は家内の誕生日でした。キレイな御花を頂きありがとうございます。関谷さん、昨日はありがとうございます。 鳥山 政明さん
- ・当社で製造しました新製品自転車スタンドを紹介させていただきます。 馬場 将嘉さん
- ・来週3月14日から台北延平RC41周年記念例会に25名で参加してきます。出席の皆様よろしくお祈りします。 湯澤 勇生さん
- ・関谷さん、昨日はありがとうございました。 田中 宏さん
- ・市岡さん、先日はお世話になりました。ありがとうございます。 森 裕之さん
- ・Jリーグが開幕しました。中日ドラゴンズもオープン戦はじまりました。今週末はナゴヤウィメンズマラソンです。交通規制にご注意下さい。

山口 哲司さん

・先週は熱海、今週は錦三と美味しい料理を頂きとても楽しいひとときを過ごせました。紹介いただいた先輩方に心より御礼申し上げます。

本多 誠之さん

・本日は雨ですが、やはり花粉が気になります。 酒井 俊光さん
・先週はあつた朔日市の為、欠席いたしました。 鈴木 淑久さん
・3月1日のあつた朔日市も無事開催出来ました。ありがとうございます。

花井芳太郎さん

台北延平RC41周年記念式典出席者壮行会

3月14～16日の台北延平RC訪問が迫って参りました。訪問参加者の壮行会を行います。



幹事報告

大嶽達郎幹事

- ・本日13時40分から第2回在籍3年未満会員研修会をヒルトン名古屋4F「竹園の間」にて行います。懇親会を18時から焼肉「れんが家」にて行います。
- ・次週3月15日(木)は休会です。
- ・次々週3月22日(木)の13時40分から新旧会長・副会長・幹事懇談会をヒルトン名古屋4F「梅の間」にて行います。
- ・My Rotary登録者の19名の方に、地区よりマイロータリーカードが届きました。メールボックスに入っています。
- ・2月6日に発生した台湾東部地震の義捐金を集め、次週、台北延平RCへ持って行きます。募金箱を用意していますのでご協力お願い致します。

委員会・同好会報告

ゴルフ部会3月度(第384回)三好カントリークラブ 開催日:3月9日(金)

	氏名	グロス	HDCP	ネット
優勝	近藤茂弘さん	100	26.4	73.6
2位	鈴木 実さん	96	21.6	74.4
3位	鈴木淑久さん	83	8.4	74.6

第385回ゴルフ例会は4月10日(火)愛知カンツリー倶楽部にて開催されます。

社会奉仕委員会:市岡正蔵委員長

3月11日に東山植物園にて西・東名古屋区分共同事業として桜の回廊プロジェクトの植樹・式典が開催され、稲葉徹会長、鶴田浩次年度委員長と参加致しました。



卓話 梶山女学園大学生活科学部教授 村上心さん

地域の賦活・再生 中川運河チャンネルアート等の活動

地球は45億年前に誕生して、30億年後に死を迎える。時間軸を1億分の1に縮めると、地球は今45歳の壮年。75歳まで生きるということになる。人類が出現したのは、約100万年前。地球と同様に縮めると、ほんの3日半前に現れた赤ん坊である。この人類が、自分たちだけが便利で快適な環境を地球上に造り続け、永年積み重ねて来た地球の営みを破壊した、この百数十年の振る舞いを多に反省しなければならない。一時的に地球を「支配」する権利を有した我々は、残る30億年間を考え、人間だけでなく、地球上のあらゆる動物、植物、物質を「幸せ」にする義務を負っているのである。

そのような思考を実現するための活動の一部に、水辺に完成宿る環境を取り戻し、第一歩として名古屋の中川運河に事例を創る活動(一般社団法人中川運河チャンネルアート:村上は副理事長)がある。

建築/団地/地域の再生についてみると、我が国の住宅市場が、スクラップ・アンド・ビルド型(新築型)から欧米の多くの国にみられるようなサステナブル型(再生型)へと変化するのに伴い、建築関連産業の構造転換が求められている。この変化と転換は、相互に関連すべき動きであり、少子高齢化・環境保全・経済環境などの社会的諸課題への有効な処方箋として位置付けられる。既存・新築双方を対象とした、良質な住宅ストックの「持続可能な(サステナブルな)」活用を目指す居住環境づくりを、住まいづくりの「再生」と呼ぼう。欧米では、日本より早くこの再生が定着している。建築工事高に占める再生工事の割合をみても、欧州では50%前後を示している国が多いのに対し、日本では10~20数%であるとされている。また、現存している住宅が建設された時期をみると、例えば米・英・仏・独においては、1971年以降に建てられた比較的「新しい」住宅が20~50%に過ぎないのに対して、日本では約80%を占めている。逆に、1944年以前に建設された住宅は、この欧米4各国では20~40%が現在も立派な住まいとして使われているのに対し、我が国では数%の割合に過ぎない。我が国のスクラップ・アンド・ビルド型建築生産体制は、第二次世界大戦後の産業社会構造の転換によって促され、土地問題や税制によって加速されたものである。また、大きく更新される耐震基準や性能基準などが、改修・補強工事よりも、新規に建替えるという手法を選択させてきたことも建替を促進した一因となっている。しかしながら、現在、住宅ストック数は総世帯数をはるかに超えていること、人口減少が始まっていることから、土地不足は事実上解消の方向へ向かっているし、増大する空き地・空き家の活用は喫緊の課題である。「無いからつくる」ことから「有るけどつくる」こと、「たてものをつくる」ことから「環境をつくる」こと、「今便利なものをつくる」ことから「将来も便利なものをつくる」こと、への発想と目的の転換が、今、社会と産業に求められている。

欧米の「再生(リノベーション)先進国」では、1950年代~80年代に建設された大量の集合住宅への再生が、既に1980年代から日常的に行われている。空室割合の多さ・入居者階層の偏り・バングラリズム(破壊行為)の多発・建物経年損壊の進行・高層住居の子供への悪影響・安全性の欠如・エレベーターの不足などの集合住宅に関する諸問題や、エネルギー消費節減の為に断熱工事の必要性などが指摘され、その対策として再生が行われているのである。修理や修繕などの比較的軽微なものから、バルコニーの室内化/付加、エレベーターの設置、屋上増築、環境・資源保護設備の設置、芸術家とのコラボレーションによる外壁の美化、職業訓練施設の整備などの大規模なものまでみられる。「再生」とは建物の寿命を延ばす為の工事(空間的再生)だけを意味するのではない。失業者への技能教育や雇用対策などの「社会経済的再生」や、地域の安全・景観などを改善する「環境的再生」を含んだ取り組みでなければ成功しない。新築を中心とする住宅生産システムが、再生工事との共存へと移行するためには、例えば、調査・診断の技術、居住者間での合意形成、工事中およびその前後における住民への対応や騒音などのトラブルへの対処、工事安全対策、職人のスキルや教育、新築に比して割高なコスト、積算の難しさ、中古住宅への価値基準の曖昧さ、などの幾つかの課題が存在している。これらの課題に対して、一つずつ日本型の生産システムと文化を踏まえた解決手法を開発して行く必要がある。

「都市の未来は『ユートピア』ではなく、『ディストピア』にほかならない。」例えば、映画「ブレードランナー」で描かれた未来都市像は有名だ。論理的な理想都市像を提示してきた西洋で創られた映画が、混沌としたアジア都市を未来像として示したことは興味深い事実である。「スラム化」と「スラム」を混同することは危険である。「スラム化」とは、環境が悪化していくプロセスを指す。すなわち、ある時点における、定着した居住環境が当たり前であると思っている人々が、その環境よりも悪化した状態を観察し述べるのが「スラム化」である。先進国では、バングラリズム-破壊行為-や人への犯罪の増加、空き家への浮浪者の棲み付きなどが具体的現象とされる。結果として、今の幸せを減じる危機感が生まれ、不幸であると感じることになる。幸せとは、そもそも相対的な感情だからである。一方で、「スラム」とは、単純に、先進国で暮らす人々からみて貧しいと判断する環境を指す。しかしながら、そこで暮らす人々が必ずしも不幸であるとは限らない。筆者が調査で訪れるタイやインドネシアのスラムで暮らす人々は、明るく楽しく暮らしている。食料品店、洋服店、路上レストラン、クルマとバイクの修理屋、建材屋、なんでも揃う。小学校もあるし、幼児はみんなで面倒をみているので、お母さんも安心して仕事に出かける。通路には、1.5mほどの幅は物を置いてはいけないというルールも存在している。公共空間は皆のものだという共通の認識が徹底しているのだ。住宅そのものは、トタンや木材で簡易につくられたもので、収納も設えておらず、個人の部屋も不足しているが、確かに彼らは幸せに暮らしている。住・買・職・憩・学という住宅地の5要素と、社会/経済/環境という持続可能な集住の3要素が、彼らの水準としては満ち足りているのだ。「スラム化」は不幸への過程であるが、すべてとはとても言い切れないが「スラム」「ディストピア」は幸せの場所であるかもしれない。村上研究室が数年前に行った「高蔵寺ニュータウンの空地・空家調査」では、マスハウジング期に計画されたベッドタウン型理想都市(ユートピア)が衰退期(ディストピア)へ突入する前兆としての、空地・空家が確認された。空地が増えることは「悪」であると決めつけがちだが、自然へ還すことも含めた環境的活用再生行為の可能性は、未来にとって「良い」ことである可能性もあるのだ。



例会のご案内

- 今週 3月15日(木) R規定により休会
- 次週卓話 3月22日(木)
テーマ: 上流と下流を家具でつなぐ、コダマプロジェクト
卓話者: (有)みずのかぐ 代表取締役社長 水野 照久
- 次々週行事 3月29日(木)
テーマ: 第1826回例会及びIDM
時間: 18:00~20:00